

令和6年度 教育事業

「トビーのわかさわん海探検」

日時：令和6年8月16日（金）～18日（日）

◆目的

- ・若狭湾の自然の中での体験活動を通して、地域の自然に親しみ、地域の自然を大切に、地域の魅力を発見できる子どもたちを育てる。
- ・グループ活動や自然体験活動を通して、子どもたちの自己成長の機会とする。
- ・自然環境への理解を深め、環境保護（SDG s）の意識を高められるようにする。

◆参加実績

参加者：小学生4年生～6年生の30名（内2名欠席で参加人数は28名）

内 訳：4年生（男子5名、女子4名）※欠席：男子1名、女子1名

5年生（男子5名、女子3名）

6年生（男子5名、女子8名）

（応募者：52名）



◆講師

名古屋 ECO 動物海洋専門学校 白井 芳弘 氏（以下：白井氏）

◆事業サポート

若狭湾ボランティア 6名（以下：若狭ボラ）

名古屋 ECO 動物海洋専門学校ボランティア 12名（以下：ECO ボラ）

◆日程

8/16(金)		
午前	午後	夜
	13:00 受付開始 13:30 開会式 14:00 アイスブレイク 15:30 海と森探検	17:15 夕食 18:30 夜の生き物探検 20:30 入浴
8/17(土)		
午前	午後	夜
7:00 朝のつどい 7:20 朝食 9:00 海探検(スノーケリング)	12:00 昼食(弁当) 13:30 海探検(スノーケリング)	17:15 夕食 18:30 水槽作り 20:30 入浴
8/18(日)		
午前	午後	夜
7:00 朝のつどい 7:20 朝食 9:00 レクリエーション 10:00 解説板、探検隊バッチ作り 11:30 閉会式、集合写真 11:45 解散		

◆アンケートより

問1

① 全体の感想は、どうでしたか？

- ・海とか生き物とか観察できて楽しかった。
- ・みんなが楽しかったことやがんばったことを聞いてよかった。
- ・2日間で海に行ったり山に行ったりできた。
- ・海に入って、実際にたくさんの生き物がいて楽しかった。
- ・スノーケリングが楽しかった。
- ・いろんな体験ができて楽しかった。
- ・ごはんがおいしかった
- ・みんなと自然を通して仲良くなれた。

② 全体の進め方は、どうでしたか？

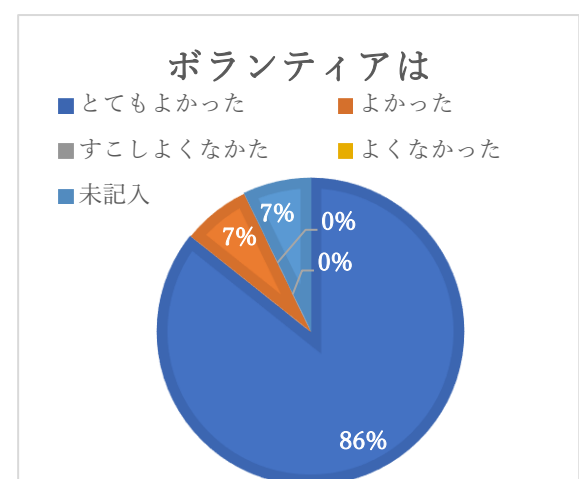
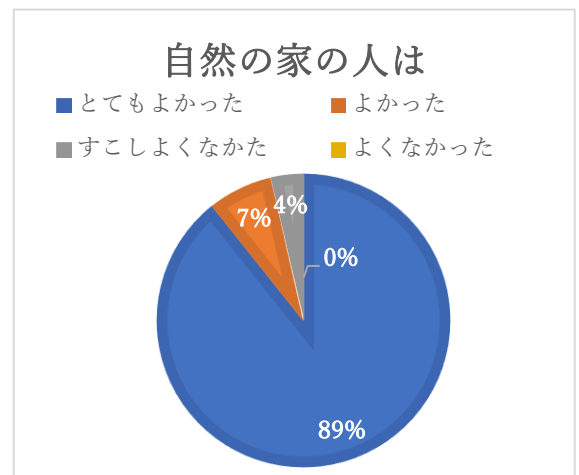
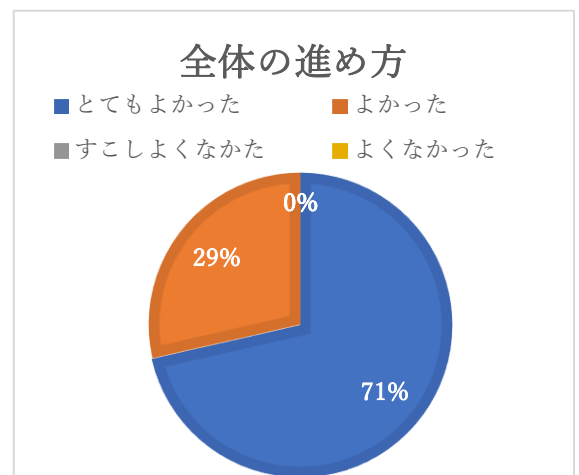
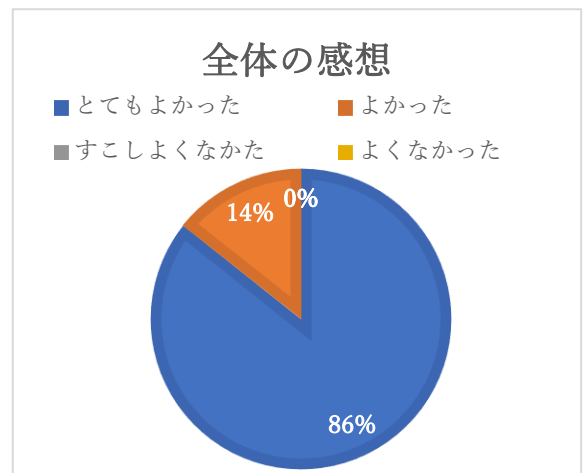
- ・スムーズにうごけていた。
- ・分かりやすく説明してくれた。
- ・4年生の子にもわかりやすくていねいにすすめていた。
- ・わかりやすく説明してくれるからわかりやすかった。
- ・ちょっと遅れ気味のところもあったけど全部することができてよかった。
- ・予定通り進んでいたのよかった。
- ・次の予定をいってくれて分かりやすい。
- ・たまに忙しい時もあったけどスムーズにできた。

③ 自然の家の人は、どうでしたか？

- ・質問することに答えてくれた。
- ・いろんなことを教えてくれた。
- ・みんな明るい人ばかりで楽しかった
- ・話しやすかった。
- ・優しくて関わりやすかった
- ・あんまりしゃべっていない。

④ ボランティアのお兄さんやお姉さんは、どうでしたか？

- ・みんなめっちゃ話してくれたし、自分たちのことをちゃんと見てくれた。
- ・優しく楽しく接してくれた。すぐに仲良くなれた。
- ・いろいろなことを教えてくれた。
- ・こまめに部屋に来てくれたり、いろいろなことを手伝ってくれた。
- ・いっぱいしゃべりかけてもらえうれしかった。
- ・たくさん話しかけてくれたので、なじみやすかった。
- ・たくさんいいところを見つけてくれた。



問2

楽しかったこと・思い出

○シュノーケリング

- ・上から海を見ていつもと違う海が見れて楽しかった。
- ・ウミウシを見た。
- ・たくさんの魚を見れたこと。
- ・魚の観察。
- ・みんなでできたこと。
- ・貝をとった。

○磯観察

- ・カニをとったこと
- ・楽しかった。

○山探検

- ・夜に山に行ったこと。

○水槽作り

- ・インテリアや、魚の入れる
組み合わせを気を付けた。
- ・協力して作ることができた。

○人とのかかわり

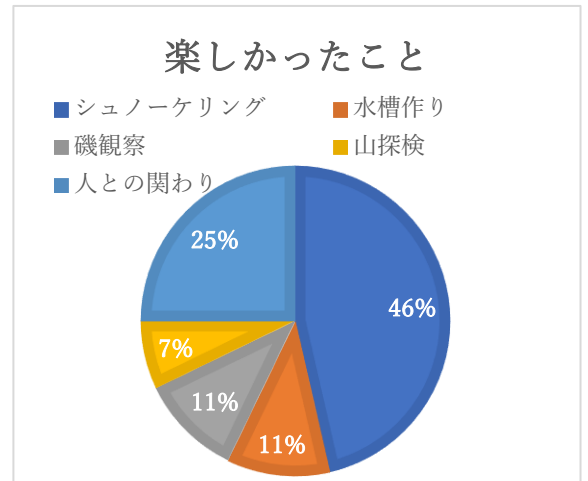
- ・みんなとごはんを食べながら会話したこと。
- ・ボランティアの人と仲良くなれたこと。
- ・部屋みんなの話を聞いていたこと。
- ・部屋で寝ながらしゃべったこと。
- ・スタッフや友だちとのお話。
- ・みんなでご飯を食べた。
- ・みんなとしゃべったこと

問3

発見や気付いたこと

- ・知らない魚や生き物の名前を知れた。
- ・若狭湾には多くの生き物がある。
- ・海にはいっぱいいろいろな魚がいたり山でもいろいろな生き物があることを知りました。
- ・川だけでもいっぱいカニがいっぱいたこと。

- ・魚の特徴
- ・ヒトデに目が5つある。口がある。
- ・生き物は自然で生きるための工夫をしている。
- ・ウミウシは海藻のところに潜んでいる。



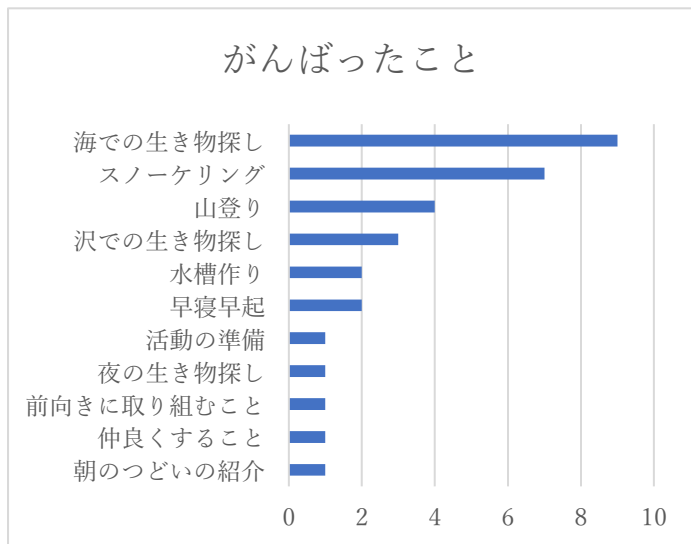
- ・海藻がたくさんあったところに魚がたくさんいた。
- ・魚などは擬態する。

- ・森の生き物
- ・イワガニが強くて最強
- ・カニは暗いところが好きで、手で覆ってあげると落ち着くこと
- ・巻貝は左足と右足があるということ
- ・虫が意外とかわいい。

- ・食物連鎖
- ・水槽作りの時に〇〇は××を食べるなどを教えてくれたので勉強になった。
- ・虫が少なかったけどセミがうるさかった。

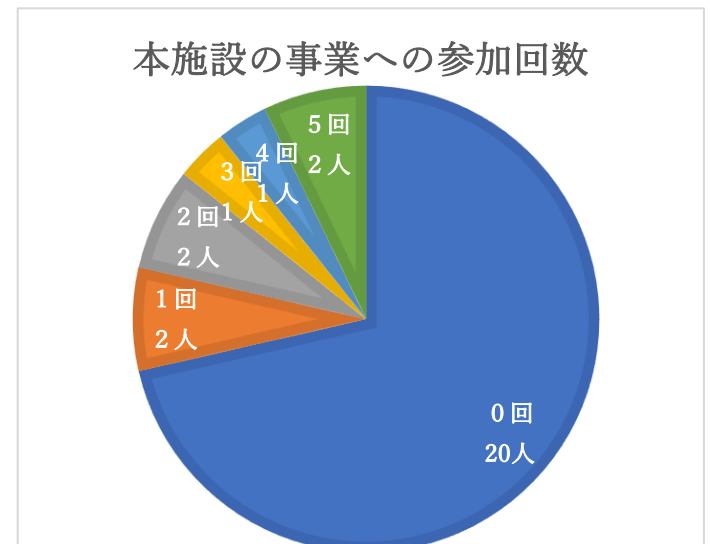
問4

がんばったこと

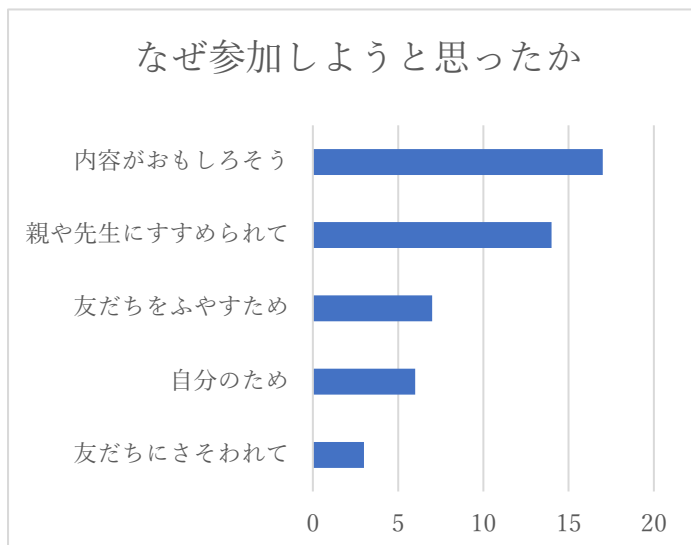


問5

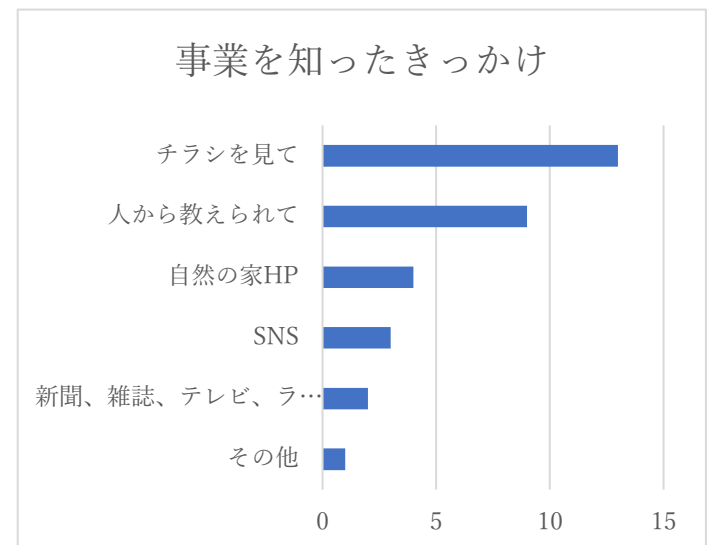
参加する前について



なぜ参加しようと思ったか



本事業を知ったきっかけ



◆成果

○若狭湾の自然の中での体験活動を通して、地域の自然に親しみ、地域の自然を大切に、地域の魅力を発見できる子どもたちを育てる。

- ・沢や海での生き物を見つけるプログラムでは、白井氏と海や生き物の知識が豊富な ECO ボラが各班に2名ずつ帯同した。そのため、見つけた生き物を共有したり子どもたちの興味に即時に対応したりすることができ、地域の魅力の一つである自然の豊かさに触れることができた。

○グループ活動や自然体験活動を通して、子どもたちの自己成長の機会とする。

- ・スノーケリングマスクの装着に苦手意識のある参加者のペースに合わせて、少し班から離れた浅瀬で ECO ボラと一緒に箱メガネなどを使って水中観察に取り組んだ。今までよりさらに海の中の魅力を感じたことと、沖での観察をしたい気持ちが膨らみ、スノーケリングマスクを装着して班の仲間と一緒に場所で水中観察ができるようになった。
- ・6年生が周りを見ながら言葉かけしていたり、周りの仲間をサポートしたりしている様子が見られた。

○自然環境への理解を深め、環境保護（SDGs）の意識を高められるようにする。

- ・今回の事業は、本施設の環境教育プログラムである「トビーのわかさわん探検隊」の活動場所や内容を調整して実施した。生き物を探索したり捕獲したりするプログラムが多く、石をめくったりたも網を水中で振り回したりと主体的に取り組んでいる姿が見られた。
- ・水槽作りでは砂や海藻の付着した石を入れることで、より実際の海に近い様子を再現することができた。そのためずっと生き物の入った水槽の前で見ている参加者がいるぐらい満足感が得られる結果となった。
- ・1日目の夜や最終日のまとめの中で食物連鎖等の環境の循環を伝えることで、住む地域や森や沢など豊かな自然を守ることがそこに生息する生き物にとって大切なことを学ぶことができた。

○運営に関わって

- ・海の活動や生物に詳しい ECO ボラと、子どもたちと関わるボランティア活動の経験のある若狭ボラが同じ班にいたことで、ボランティア同士がコミュニケーションをとりながら参加者の対応をすることができた。
- ・アイスブレイクで実施する自己紹介ビンゴカードを早く到着した子どもから書きながら待つことで開講式の前から和んだ雰囲気スタートすることができた。アイスブレイクでは子どもたちと目線の高さを合わせながら関わるボランティアもいて、より早く打ち解けることにつながったように感じる。本事業の楽しかったことに友だちやボランティアとの関わりや生活と回答している参加者が25%もあり、想定以上の数値となった。
- ・天候不良を想定して代替案を準備したことで当日もスムーズに進めることができた。
- ・参加者の年齢に合わせて、解説や活動、休憩時間を適度に組み合わせたことで集中を切らさず取り組む姿を見ることができた。また、海のことに関心がある参加者も多く、白井氏の話に興味深く聞くことができていた。
- ・班については生活面でもリードできるように同性の4年生と6年生を意図的に組み合わせた。班の中で声を掛け合ったり支え合ったりしながら物事を進めている様子が見られた。

◆事業運営のツボ・工夫・反省・課題

【ツボ・工夫】

- ・白井氏との事前打ち合わせで様々なパターンを想定して各プログラム前に流れを打ち合わせることで参加者に合わせプログラムを変更することができ、参加者の満足度につながったように感じる。
- ・生き物の探索、捕獲（沢、海ともに）するプログラムへの関心や意欲が高く、見つけたものを口々に周りに伝えながら探したり捕まえたりすることができた。また、生き物を見つけたり捕まえたりしたときに、共感や説明してくれるボランティアが近くにいることは参加者の意欲につながったと考えられる。
- ・参加者の疲れ具合や様子を見ながら、活動の変更や時間を調整したことで全員が元気に終わることができた。
- ・若狭ボラと ECO ボラの主な役割を「日常生活での支援」と「沢や海での支援」とに分けたことで無理なく参

加者への支援を提供することができた。(役割は分けたが、それぞれの場面では支援の補助として一緒に活動していることの方が多かったが、複数人で子どもを見ることで一人一人に目が行き届きやすかったのではないかと思う。)

- ・夜のミーティングを若狭ボラと職員だけとする予定だったが、ECO ボラと白井氏も含めて実施したことで参加者一人一人の様子を共通確認することができ、ボランティア自身の子どもの見方や考え方に深みがでた。それが参加者のボランティアとの関係が深まることにもつながっているように感じた。
- ・水槽作りの前にポイントとして生き物入れすぎないなどの注意点はあったが、班のボランティアとも相談しながら作成した水槽のクオリティーが高く、参加者の満足感につながったように感じた。

【反省・課題】

- ・夜の生き物観察では生き物が見つけないことや暗い中傾斜のある岩の沢まで登ったこともあり、参加者によってはきつく感じた。 →今回はボランティアが複数名いたため、本人の様子を聞き取り中腹で待機の選択をした参加者もいた。頑張ったことに「山登り」と書いている参加者が複数名いたため、もう少し参加者への見通しがあってもよかった。
- ・サブタイトルに～海と森の秘密を探せ～としていた。白井氏からの説明の中で「森の豊かさが海の豊かさにつながっている」ことは説明があったが、参加者自身が見つけた秘密の共有をするような時間が設定していなかった。 →参加者一人一人が見つけた「秘密」を尋ねるようなものがあってもよかったのかもしれない。
- ・完成した水槽一つ一つの生き物の説明を白井氏からしていただいたが、6個分の水槽の説明となると集中が続かない参加者もみられた。 →完成した水槽のコメントや解説は必要だが、テーマ毎に分類して合わせて説明するなどの時間を短縮するための工夫が必要。
- ・下駄箱に忘れ物が数点残っており、再度取りに来てもらう結果となった。 →どのタイミングで片づけるか言葉かけをしたり、最終チェックをしてから帰らせるような段取りが必要。



アイスブレイク



沢の生き物探索



夜の生き物探索



夜の砂浜探索



夜のまとめ



海の生き物探索



水槽作り